

2017年度 交換留学 留学報告書

演奏学科 3年

留学先：アメリカ ホープカレッジ

留学期間：2017年8月～2018年5月

今回の留学生活では得るものが沢山ありました。目標通り、あらゆる分野の勉強をすることができました。どの勉強もとても貴重なものでしたが、特に音楽系の授業を通して気づいたことが沢山ありました。留学前、演奏学科で勉強している際に同学科の学生よりも音楽理論や楽器を始めた時期が遅かったこともあり、演奏の実力や音楽の専門知識の不足が原因で劣等感に悩まされたことがあります。本当は出来るはずのことで、自分には不可能だと思っていましたが、同じく音楽を勉強する現地の学生たちと切磋琢磨していくうちに考えが変わりました。フェリスの演奏学科では、どちらかというプロの演奏家を養成するカリキュラムに沿って、厳しめな姿勢で音楽と向き合っていました。アメリカでは少し異なりました。現地の音楽を学ぶ学生たちは、理系の学部にも所属しているけれど息抜きに音楽をやる人や、大学に入ってから音楽の勉強を始めた人など、色々な人がいました。自分や周りの人たちの音楽技術や知識等のレベルがどうであれ、自分のために楽しむという姿勢がとても私には魅力的に映りました。その人たちと学び、意見を交換するうちに自分の人生を豊かにするためという、本来音楽を学ぶという上で最も大切な点であり原点に気づかされ、必要以上のプレッシャーを感じずにこれからも音楽と向き合っていこうと思えました。それと同時にフェリスでの学びについては、厳しいけれど、純粋に音楽を楽しむためのツールとして必要な技術力や感性をかなり綿密に、高いレベルまで磨ける環境であるのだと気づくことができました。音楽は特に言語の壁を超えて人をつなぐ力があると思います。これからも両方の環境にとっても感謝しながら学んでいこうと思えました。

そして留学して一番良かったなと思ったことは、私のこれからの人生において自分が何をどうしたいかを気づくきっかけをもらったことです。アメリカに行ってから10ヶ月間、初めから最後まで先生方や友達、アドバイザーなど、とにかく人に助けをもらうことが多く、その人たちは見返りを求めずいつもフレンドリーに手を差し伸べてくださいました。どうしてそんなに良くしていただけるのか聞いてみると、自分たちも過去に色々な人に助けられた経験があるから今度は自分が何かをしてあげたいとおっしゃっていました。その言葉で、私は今まで家族や友達や恩師、サポートしてくれている何人もの人によって支えられてきて、様々な経験にも恵まれてきたのだなと改めて実感しました。アメリカで助けてくれた人たちが言っていたように、私もこの先そんな風に誰かに何かを与えられるような人物になりたいと思いました。そのために就職活動をするに当たっても、誰かに何かを貢献できる仕事が将来したいので、それを軸に行動していこうと思います。

2017年度 交換留学 留学報告書

英語英米文学科 3年

留学先：アメリカ ホープカレッジ

留学期間：2017年8月～2018年5月

高校生の時からの目標であった留学を終えました。長いと感じることもありましたが、今思えばあっという間に感じます。多くの人に出会い様々な経験をするのできたこの1年間は、一生の財産となりました。これも、多くの人への応援と支えがあってこそ実現できたことだと思います。留学の準備段階では、TOEFLの勉強に専念するために所属していた部活動を辞めました。何日も悩んで考えて出した結果に理解してくれたメンバー無しに、ここまでやってこれなかったと思います。自分が迷惑をかけたという負い目があったからこそ、辞めたいと思った勉強も続けることができました。友人からは問題集をもらったり、様々な形で応援してもらいました。家族にも、私が勉強に集中できるようにと気を使ってもらっていたと思います。また、国際課の方々には書類の提出やホープカレッジとのやりとりの際に、お世話になりました。初めてのことで不安しかありませんでしたが、陰ながらサポートして頂きました。サポートしてくれた家族、友人、国際課のみなさま、ありがとうございました。

私は高校生の頃から大学留学が目標だったので、留学が決まったときは何とも言えない気持ちでした。ついに！と思う反面、これから何を目標にして勉強すれば良いのかという葛藤もありました。留学の途中では、何をしに来たのかと思うこともありましたが、ただ、留学しなければ分からなかったことや気が付かなかったことを学ぶことができ、自分を成長させることができました。まず学んだことは、英語という言語についてです。積極的に話そうとする姿勢の大切さに気が付きました。日々の生活を通して、留学したからといって英語が話せるようになるというのは違うと思いました。自分がどれだけ会話に入っていくかが、英語を話せるようになるための鍵だと思います。生活していく中で、英語を話さないという選択肢もあります。例えば日常の会話で、自分から話しかけていくこと、会話に入っていこうとすることが必要です。現地の学生は現地の学生同士の友達がいるので、留学生である自分は席が隣になった学生に話しかけていかなければなりません。授業中も同様、アメリカはみんな発言をしますが、話そうとしなければ放っておかれます。なので、ただ黙って聞いていることもできるのです。初めは授業と英語が話されるスピードについていけず、ただ座って聞きながらノートを取ることで精一杯でした。慣れてきた頃から、まだ1回も授業で発言していないことに気が付き、どうしようと思うこともありましたが、自分が授業に対して発言したいという意欲があることを教授に質問したり助けを求めるという形で示すことで、徐々に発言できるようになっていきました。どんな場合においても、自分の話そうとする意欲を見せることが重要だと気付くことができました。意欲を示せば、必ず誰かが助けてくれます。

自分が成長したと思うところは、自信を持つという面です。私は、人前で話すことが苦手でした。そのような自分が嫌いで、克服したいと思っていました。留学中に何か苦手なことに挑戦しようと思い、プレゼンテーションの授業を履修しました。現地の学生の前で話せるようになったことは、自分の中で大きな成長だったと思います。自信が持てたのも、クラスみんなが良かったよ、と毎回励ましてくれたおかげです。もしこのクラスを取っていなかったら今までの自分と何も変わっていなかったのだから、とにかく挑戦してみることは本当に大事だと思いました。もし、留学を考えている学生がいたら、とにかく挑戦してみることをお勧めしたいです。以前、留学を考えている人の中で、TOEFLが大変そうだからと

諦めてしまっている学生を見かけることがありました。TOEFLは、傾向をつかんで慣れれば規定の点数を取ることができます。なので、とにかく先ずはやってみてください。私のこの留学準備と留学生活は、人生の中で最も濃いものになりました。準備から留学中まで支えてくれた全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝を、いつか何かの形で恩返しできればと思います。本当にありがとうございました。